

ニチレイロジグループ

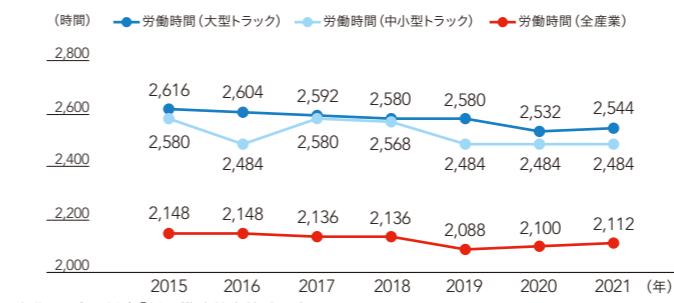
次世代輸配送システム「SULS (サルス)」

社会課題 「物流の2024年問題」

—トラックドライバーの不足と長時間労働問題

自動車運転に代表される「トラックドライバーの業務」は長距離輸配送に加え、物流拠点での手待ち時間、運転以外の付帯作業も実質的に請け負う商慣行などにより、長時間労働が常態化していました。「物流の2024年問題」とは、このような労働環境の適正化を目的に、働き方改革関連法に基づき、2024年4月1日以降、「自動車運転の業務」の時間外労働時間の上限が、年間960時間に制限されることで、荷主業界・物流業界が対応を迫られる諸課題の総称です。

トラックドライバーの年間労働時間の推移



解決に向けた取り組み

「SULS」により新たな低温物流の輸配送基盤を構築

国内No.1の食品低温物流ネットワーク

「SULS」の名称は、「S & U Logistics System」の頭文字からとっており、「S」には「3つのS」、Speedy (よりスピーディーに)、Sustainable (持続可能な)、Solution (課題を解決する)、そして「U」には「3つのU」、Utility (より効率よく)、Usability (より使いやすく)、User Experience (高い体験価値)、という意味を含めています。ニチレイロジグループの強みを掛け合わせることで「3つのS」を生み出し、社会や顧客に「3つのU」をご提供していきたいと考えています。

ニチレイロジグループの拠点間輸配送において、「SULS」の仕組みをまずは東名阪から開始。今後は全国へ順次拡大予定です。低温物流における輸配送をより高品質で持続可能な形に進化させ、これからお客様のサプライチェーンを支え続けます。

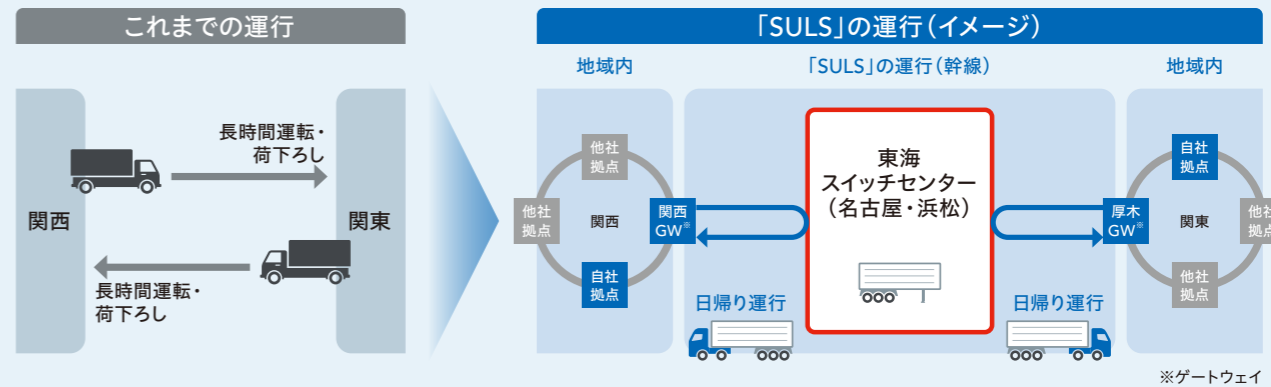
- 荷台部分の切り離しが可能な低温トレーラーを活用することで中継折り返し運送を実現 **長距離輸送の抑制**
- 荷積み・荷下ろしなどの作業をトラックドライバーではなくロジグループの拠点側で行うこと **トラックドライバーの運転業務への集中化推進**
- トレーラーをロジグループで保有し、中継拠点に常に荷積みされた状態のトレーラー(箱部分)を用意しておくことで、車両到着後すぐに次の目的地への運行に移ることができる **物流拠点での手待ち時間の削減**



ニチレイロジグループだからできる理由

- 全国約80ヵ所ある自社(ニチレイロジグループ)物流拠点
- ベースカーゴとしての圧倒的な保管荷主様の商品取り扱い量
- 30年以上にわたる全国約100社の協力パートナー様とのパートナーシップ

期待される効果



2022年4月の厚木ゲートウェイ稼働で、西向き貨物の一元化による積載効率向上を実現しました。スイッチセンターおよびゲートウェイを活用した「SULS」の効果により、関東～関西間を日帰り運行でつなぐことが可能となりました。

2023年度の取り組み

- ゲートウェイ機能の拡充(幹線中継)**
関西ゲートウェイの稼働により、東向き輸配送でも関東発同様の効果を創出
- 輸配送ネットワークの拡充(トレーラー)**
荷台切り離し可能な大容量トレーラー台数の増強(19台から34台へ)による、東名阪エリアにおける「SULS」稼働拡充と東名阪以外への運行エリアの拡大

- 安定的でサステナブルな輸配送の実現
- トラックドライバーの拘束時間短縮による業務負荷の軽減
- 環境負荷の低減
- 物が運べなくなるリスクの低減

社会的価値

経済的価値

- トータルの運行時間を大幅に短縮
- 効率的でサステナブルな輸配送基盤を構築
- 輸送能力の大幅な拡大